

市民と市長の対話集会

市長と語ろう！

ほっとミーティング

テーマ「エモーショナルデザインアプローチによる平塚市への提案」

開催結果報告書

第1回

- 1 開催日時 平成29年（2017年）10月5日（木）
午後3時30分から午後6時30分まで
- 2 開催場所 神奈川大学1号館201号室
- 3 参加者 20人（学生）



第2回

- 1 開催日時 平成30年（2018年）2月20日（火）
午後1時30分から午後3時まで
- 2 開催場所 平塚市役所 本館 302会議室
- 3 参加者 9人（学生）



第1回 平成29年10月5日(木)

1 あいさつ

【平塚市長 落合 克宏】

皆さん、こんにちは。平塚市長の落合です。本日はお忙しい中、市長と語ろう！ほっとミーティングに参加いただきありがとうございます。

この対話集会は、市民の皆さんの声を市政に活かすため、主に地域を回って行っているものです。

平成28年から選挙権年齢が18歳に引き下げられたことにより、大学生の皆さんにも選挙権があります。そこで、若い人にまちづくりに興味をもってほしいという思いから、大学生版のほっとミーティングを始めることとしました。

皆さんの率直な意見を伺い、若い人の意見も参考にしながらまちづくりをすすめていきたいと考えていますので、皆さんの平塚に対する思いをざっくばらんに伝えていただければありがたいと思います。

本日はよろしく申し上げます。

2 事前レクチャー

【内容】

秘書広報課による「平塚市のシティプロモーションについて」の説明

- ・シティプロモーション面での平塚市の課題（人口、平塚市のイメージ）
- ・平塚市でのシティプロモーションの取り組み
- ・インスタグラムを活用した魅力発信、インフルエンサーの活用
- ・湘南ひらつか七夕まつりでのPR、来街促進動画の製作

3 質疑応答

【学生】

動画やインスタグラム以外に、他市が行っていない新しいPR方法は計画しているのでしょうか。

【シティプロモーション担当課長】

平塚の素晴らしさをそのまま伝えるため、あえて奇をてらった方法は行っていません。新しいPR方法は検討中です。

【学生】

市外に向けてのプロモーションに力を入れている印象ですが、市内の人たちにはどのようにプロモーションしていくのでしょうか。

【シティプロモーション担当課長】

住んでいる人に平塚を好きになってもらわなければならないし、プロモーションの根本にはそれがあります。インフルエンサーには平塚が大好きな人を起用しており、一人一人がSNS等で投稿することで、本市の良さが伝わっていくのではないかと考えます。

【学生】

平成29年は来街者へのPR重視ということですが、インスタグラムで投稿された写真展は市役所やららぽーとなど市内にとどまっている印象です。市外で行うPR方法はあるのでしょうか。

【シティプロモーション担当課長】

渋谷のグリコビジョン、東京駅・品川駅でもプロモーション映像を流しています。また、「平塚の海岸」に特化した写真展を横浜MARK ISみなとみらいでも行うこととなっています。

【学生】

茅ヶ崎でサーフィンをしています。平塚は湘南というイメージは弱いので、湘南という一つのくくりを近隣市と協力して活かしていくとよいと思いますが、予定はあるのでしょうか。平塚の海を湘南としてPRしていくにはもう少しビーチカルチャーが充実しているといいと感じます。

【シティプロモーション担当課長】

湘南の海は他からのサーファーが入りづらいと聞いています。龍城ヶ丘プール周辺にちょっとした休憩スポットをつくることを検討しており、完成すれば印象も変わってくるのではないかと思います。

4 学生提案に向けた、大学生と市長・職員との対話

(1) グループワーク

道用准教授の進行のもと、3グループに分かれ、それぞれに市長、秘書広報担当部長、シティプロモーション担当課長が加わり、1時間30分の対話を行った。

(2) 各グループによる発表

【C班】

- ・駅の近くばかりで他が栄えていない。プロモーションが弱いからでは。
- ・「手をつなぎたくなる街」のイメージを広げる。現在の「カップルが手をつなぐ」イメージだけではなく、「家族のつながり」「世代間のつながり」を「ひらつかのつながり」にしていければよいのでは。
- ・インスタグラムのハッシュタグを「#hiratsukagood」だけでなく、「#手をつなぐ〜」など、フレーズを前面に押し出したものをつくる。フォトスポットを増やし、「そこに来たら手をつなぐと幸せになる」ようなイメージをつくることで、治安の悪いイメージの払拭と投稿の活発化ができるのでは。
- ・なぎさプロムナードは、いままでの七夕まつりだと有効活用されていないイメージ。ここを有効活用することで海側へ行く人が増え、駅前での混雑緩和につながる。また、海での花火イベント等とつなげれば帰りのタイミングもスムーズで不良も溜まらないと思う。

【B班】

- ・平塚は海のイメージがない、また、市内に良いところもたくさんあるはずなのに、対象を絞ったプロモーションができていないのが課題。
- ・平塚市は高齢者が住みやすいまちという印象はある。課題として、若い世代へのPRが必要。
- ・インスタグラムなどSNSだけでなく、流行のフェスを海で開催する等、若い世代に海から平塚を知ってもらう方法が考えられる。
- ・平塚市は有名なスポーツ選手が多いこともプロモーションにつなげられるのでは。
- ・現在の「囲碁のまち」だと地味なイメージだが、将棋のようにイメージをうまく使い、流行に乗るとよいのでは。

【A班】

- ・平塚市のプラスのイメージは、住む街としてのものが多い。マイナスのイメージは交通アクセス面が不便、駅のエスカレーターやエレベーターがない、といったものが挙げられる。
- ・交通アクセスは、電車で平塚駅まで来ると、市内に地下鉄などは無いため、そこからはバスかタクシーしかない。バスは路線が調べづらく、若者には敬遠されがちだが、実際はさまざまな路線がある。バスを有効活用することでイメージを変えられるのでは。
- ・電車については、平塚始発・平塚止まりのものがある。「電車で寝ていても着く」という便利さもイメージ戦略に活かせる。
- ・インスタグラムには景色ばかり投稿され、グルメなどの写真があまりない。市内のお店と連携し、投稿すればクーポンがもらえるなどのキャンペーンをやってみよう。ハッシュタグだけでなく位置情報もつけて投稿させれば、

よりお店のPRにつながる。

- ・ ツイッターの方がインスタグラムよりも普及しているので、平塚市もやってみては。
- ・ 平塚駅は北口ばかりで、西口や南口のイメージが弱い。行きたいと思えるようなシンボルが必要。
- ・ 世代間の交流を目的とし、大学生と高齢者の連携など、「人生の先輩から学ぶ」場があるとよいのでは。

5 まとめ

【道用准教授】

まちづくりに答えはありません。本音をぶつけ合い意思形成し、みんなの気持ちでつくりあげていくものだと思います。その意味で今回のほっとミーティングはとても有意義でした。このように今までと違う意見の引き出し方をするのもよいのではないのでしょうか。

【市長】

このような形式のミーティングは初めてであり、普段は既成概念でものを考えることが多い中、とても新鮮でした。次回の発表では、今回挙げられた課題に対して、大学生としての感性から提案していただけたと思うので楽しみです。若者に選ばれるまちにしていくため、これからも神奈川大学と連携していきたいと考えています。



第2回 平成30年2月20日（火）

1 あいさつ

【平塚市長 落合 克宏】

皆さん、こんにちは。本日はお忙しい中、市長と語ろう！ほっとミーティングに参加いただきありがとうございます。

市庁舎が本年1月4日にグランドオープンしました。この機会によく見ていただけたらと思います。

前回のほっとミーティングから早くも4か月が経ちました。皆さんにはその間、今回の提案発表に向け、準備を進めていただいたかと思います。

前回のほっとミーティングでは、シティプロモーションを含めて平塚市の施策を理解していただきました。また、その後の対話で知識を深めていただき、皆さんが感じている平塚の印象について率直に語っていただきました。

皆さんと直接話して印象に残ったのは、若い方の視線や率直な意見が新鮮で、ありがたかったということです。客観的な視点で平塚のあり方を見つめなおしていただき、自分なりの意見をいただくことで、あらためて平塚を見る機会を作っていただいたことも重ねてお礼申し上げます。

若い人の意見や提案を積極的に参考にしてまちづくりをすすめなければならないと思っていますので、このような機会を大切にしたいと考えます。本日はよろしくお願ひします。

【神奈川大学 経営学部 准教授 道用 大介】

本日はこのような場をいただき、お礼申し上げます

平塚市は、神奈川大学の学生にとって「身近なまち」ではありますが、同時に「よく知らないまち」でもありました。ほっとミーティングは、平塚をもう一度考える良い機会となったのではないのでしょうか。

前回はいろいろな情報をインプットする場でした。今回は学生なりのアプローチで平塚市の現状を分析し、提案させていただきます。温かい目で見守ってください。

2 学生提案の内容

【テーマ】

エモーショナルデザインアプローチによる平塚市への提案

【提案者】

神奈川大学経営学部 道用ゼミ 学生3名

【提案内容】

第1回のほっとミーティングで、平塚市のシティプロモーションについて学生が感じたことは、「芯が無い」ということ。

「手をつなぎたくなる街」という直接的な表現を用いたスローガンがあるにも関わらず、芯が無いと感じる理由は何か。「手をつなぐ」に込められた意図の再確認が必要であると感じた。

ここで、「手をつなぎたくなる街」を、「仲間や家族のこころの距離を近づける」ことであると再定義したい。また、感情に基づいた分析を行い、魅力的なまちづくりのため次の提案をしたい。

提案1 クレイジーな料理の祭典「GEN祭」

奇抜な料理やチャレンジ心のある料理フェス
好奇心や興奮を呼び起こす。

提案2 ゴミから遊び場へ「Upcycle Glamping」

グランピングとは、自分でキャンプ道具を持って行ったり、テントを張ったりすることなく、自然環境の中でホテル並みの豪華で快適なサービスが受けられる、新しいキャンプスタイルのこと。

素材として、市民のいらなくなった家具などを集める。

→ 社会貢献活動と創作活動を一つにする。

ゴミ拾いの関心を高めるとともに、創作意欲を高める

「ゴミも素材」という認識を与え、無駄遣いの抑制にもつながる
市民同士や観光客ともつながる

提案3 仲間を求めて「Seaside Meet up」

野外でその場を通してテーマを持った交流イベント

- ・ルールを設ける
- ・年齢は問わない
- ・名前、出身、目的を書いたシールを貼る
- ・個人から企業まで参加

→ お酒もあることで開放感を演出

知らない人とも話せる（例：学生と企業の出会いの場）

提案4 好奇心の発信場所「マイブランド」

- ・自分の作ったものを披露・販売

- ・企業も来るため、マイブランドを宣伝することも可能
- ・服、料理（屋台でも可）を中心に展開

提案5 太陽みたいに明るい笑顔が集まる場「ひらつか区リエイティブ」

創作活動の交流

- ・自作の音楽、映像や空間を作り出す人の交流
- ・お互いに作品を披露して刺激しあい、その場で作品を作って披露してもらう
- ・クリエイティブ特区を平塚に作ろう

【まとめ】

スローガンの曖昧さ、原状のプロモーションにおける問題を、感情を基にした新たな分析手法を考案して分析しました。分析結果を基に、魅力的な街づくりのための5つの提案をしました。少しでも市政の役に立てればと思います。



3 大学生と市長・職員との対話

【市長】

感情をとり入れてまちの魅力や弱点を分析する手法が新鮮でしたが、どのように考案したのですか。

【学生】

やみくもに政策・施策を分析するのでは、何が足りないのか伝わってきません。この「何か」を「感情を揺さぶられること」とであると捉え、感情に基づいた分析手法を考案しました。

【市長】

平塚市に対する、若者の視点から感じ方、弱点、他市との比較などの言葉で言い表せない部分を、ポイントをついて分析していただき、とてもありがたいと思います。

【シティプロモーション担当課長】

平塚市のシティプロモーションが分かりづらいという御意見をいただきました。シティプロモーションを行うにあたって芯を探しましたが、なかなか良いものはありませんでした。裏を返せば芯をしっかり絞ってアプローチすればよいということです。

「手をつなぎたくなる街」というフレーズは、分析していただいたとおり、ひとの距離が近いあたたかいまちを表すために設定した経緯があります。

今回の提案は、行政と民間の得意分野が両方とも活かせるものであり、本市としても活かせるところを使わせていただきたいと思います。

【学生（質問）】

提案について、学生の立場で質問します。

ひとの距離が近いあたたかいまちを作っていくにあたり、新しいことばかり行うのではあたたかい場面が構築されにくいのではないのでしょうか。イベントで盛り上げるのもよいが、あたたかさを失わないための方法は何か考えていますか。

【学生（回答）】

最初の入り口は好奇心であり、新しいイベントなどの刺激的な場であると思います。

初めは新しいことでも、回数を重ねる度に平塚らしさが取り込まれて、あたたかみのあるイベントになっていくのではないかという思いを込めて提案しました。

【道用准教授】

今回、学生は分析を行うにあたり、平塚はどこをめざしているか（湘南ブランドに乗っかるのかどうか）いまいち分からず、壁にぶつかりました。市としてはどう考えていますか。

【シティプロモーション担当課長】

シティプロモーションの計画を3年計画で進めています。

まず認知度を高めていくため、スローガン、ロゴマーク、インスタグラムなどを展開しました。

平成29年度は来街促進を目的に、まちに来てもらい、知ってもらい、好き

になってもらうための取り組みとして、駅前の地下道アートミュージアムなどを展開しました。

平成30年度は平塚に住んでもらうことを目指しています。いきなりは難しいですが、湘南ブランドを利用することも含め平塚も居住地として検討のひとつに加えてもらうことを目指します。

【秘書広報担当部長】

シティプロモーションの先にある市としての思いは、「持続可能なまちづくり」。人口減少社会の中、若いひと、子育て世代に定住していただきたいという目標があります。

【道用准教授】

湘南ブランドに便乗するだけでは、同じ湘南の中で「住むにあたって許容できるまち」の一つになるだけで終わってしまうのではないのでしょうか。

地下道アートミュージアムを例にとっても、学生の印象としては学校の行事と同じく「やらされている」印象が強い。そうではなく、中から湧き上がってくる文化をどのようにつくるかという命題から「感情」を分析する手法にたどり着きました。

【学生】

平塚に住んでいる人たちがまず平塚を好きであり、平塚を魅力的であると感じることが必要です。

実際に住んでいるひとから「いいよ」という意見を聞きたい。自分たちの中で愛着があった方が主体的になります。何かことを起こすには市民の力が大切と考え、今回の提案に結びつきました。

【学生】

何かことを起こすという時、このように会議のような場だと、何か発言しなければという思いから本当の感情が上手く表現できません。

例えば、公園などの自然に触れ、子どもたちが遊ぶような明るく広い世界が見えるような場で話し合った方が自分の感情を表現できると思います。教室のように感じるとやらされている感じが出てしまいます。

【道用准教授】

学生の意見を聞いていると、若者の価値観が大きく変化していると感じます。

ある調査では、社会的に自己実現欲求の割合が増えているそうです。何かを習うより主体的に。自己表現の方法は、インターネット上のツールだけでなく、現実にしても個人で作ったものを発表する場が増えてきています。社会全体も

個性を認めるべきであり、その方法を我々も見つけなければなりません。

【学生】

文化的なものを形成するには大きな犠牲が必要であると思います。村井弦斎にしても個性的であるが故に「芯」があったのでは。現代社会にも、個性が許される場があれば自己表現しやすく、提案5のようなクリエイティブな場が平塚市にあれば大きな魅力の一つとなるのではないのでしょうか。

【道用准教授】

そのような点で参考になる都市がバルセロナです。ファブシティ（ものづくりの拠点）宣言を行いました。根本にあるのは、今の社会システムでこのまま人間が乗り切れるのかという疑問です。現代社会は一人が歯車のひとつに例えられるが、今の社会とは違う価値観を見出したい人たちにはこのような考え方もよいのではないのでしょうか。

【秘書広報担当部長】

行政の立場からすると、事業は計画的に行わなければなりません。提案の継続性については検討しましたか。

【学生】

イベントとして継続していくのが理想ですが、参加者の中から「自分が主体となって似たものやってみよう」という流れが生まれればよいと思います。同じことの繰り返しでは面白みがなくなってくるが、形が変わっても核が同じならいろいろな形や方向性で広がっていきます。同じ思いを受け継いだものが続いていけば、「継続」と言えるのではないのでしょうか。そのため、いろいろな人が主体となって動いてほしいと思います。

【道用准教授】

学生の提案にはひとつ矛盾があります。市が主体だと「かっこ悪い」し、個人が主体だと継続性に問題があります。市と個人がどう関わって継続していくのかというスキームが欠けています。初めに大枠を決めるのではなく、小さく始めてその都度考えていかないと継続性を含めて実現は難しいのではないのでしょうか。

【市長】

市長の立場として申し上げますと、生活や安全に関することは、公がやらないと街の価値が上がりません。「市民が主人公になるまち」「活動的でよいまち」は理想ですが、そこに持っていくまでが難しく、地域を盛り上げようとしても、

市が主導しないと動かない部分があります。

理想には追いついていませんが、まちの目指すべき形であると思います。市が場所や機会を提供して、市民が自分たちの思いを実現できる活動エリアができれば素晴らしいと思います。

これからのまちづくりはどうすれば市民の皆さん、若い人たちが主人公になれるか考えることが、素晴らしいまちづくりにつながるのではないかと考えます。

【道用准教授】

キーとなる人が定住し、その地に根付かないと難しいと感じます。学生の皆さんはどのような活路を見出せばよいと思いますか。

【学生】

確かにそこは課題であると思います。今回の提案はキーとなる人や文化がなければ難しいと考えています。

ただし、平塚市民が平塚を好きになり、魅力的な街にしていきたいという思う気持ちが、やってみようという行動につながります。大学生には地域と連携したい人もいます。そこに目をつけて市から呼びかけてもらえれば、学生もやりがいを感じるし、面白いことが生まれるのではないかと思います。

【道用准教授】

市からもバックアップをしてほしいということですね。

4 まとめ

【市長】

若い視点をもつ学生と対話でき、非常に面白かったです。

行政という組織は、それぞれの部署で予算、法律、条例というきまりがすぐ頭に浮かびますが、市の真に目指すべきところをいくつか提案してくれて安心しました。よいところは参考にして平塚をより魅力あるまちにしたいと考えます。皆さんの提案をしっかりと受け止めて考えていきたいと思っています。

ありがとうございました。

【道用准教授】

今回このような場をいただき、学生も市に関わりやりがいをもつことができました。ありがとうございました。

